

令和 6 年度

「運営に関する計画」
【最終評価】

大阪市立大宮中学校
令和 7 年 3 月

(様式 1)

大阪市立大宮中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では長年にわたり、人権教育を基盤とし、生徒が安心して学べる学校づくりを進めてきた。規範意識の向上や授業規律の定着を大切にし、互いに認めあい、高めあえる集団の育成に継続的に取り組んでいる。

近年、学校選択制により、他校区への生徒の流出が加速化し、在籍生徒数が大きく減少している。他校区へ就学する生徒は学力上位層が多いと考えられるため、さまざまな学力調査等における平均正答率だけをみると、大阪市平均等と大きな隔たりがみられる。また、学級における学習をリードするモデル的な存在が少なく、協働的学習を充実させることが難しい状況にある。

生活指導面においては、不登校や別室登校の生徒など、個に応じた対応が求められる場面が多くなっている。一人一人へのきめ細やかな対応をするために、家庭との連携はもちろん、関係諸機関とも連携を進めつつ、課題解決へと向かっていきたい。

また、時間を守る、身だしなみを整えるといった、基本的生活習慣の確立に向けた指導を、生徒が自分たちで考えながら理解し、行動に移せるような方法で行っていかなければならない。

教職員は総じて日常の業務に熱心に取り組んでいる。一人一人の強みを生かすことができるチーム作りを進めるとともに、さらなる指導力向上をめざした研究・研修に取り組むことが必要である。

本校にはおおらかで人なつっこい生徒たちが多い。生徒が活躍できる場面、「できた」「わかった」と感じられる場面をたくさん作り、達成感を味わい、自信をつけさせていく教育活動を推進し、学力の向上、そして生きる力を育むことにつなげていきたい。

令和 9 (2027) 年度に迎える創立 80 周年をめざし、一層地域との信頼関係を深め、生徒がいきいきと学び、教職員がいきいきと働く学校をめざしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 95% 以上にする。
R5 : 81. 5% → R6 : 80. 3%
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
R5 : 5. 8% → R6 : 15. 5% (12 月末現在)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
R5 : 11. 1% → R6 : 23. 1% (12 月末現在)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。
R5 : 38. 5% → R6 : 38. 2%
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
R5 → R6 : 3 年国語 91. 0% → 85. 0%、3 年数学 70. 9% → 74. 5%
2 年国語 86. 0% → 99. 8%、2 年数学 80. 2% → 85. 0%
R6 : 1 年国語 87. 0%、1 年数学 78. 5%
- 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 35%以上とする。
R5 : 29. 6% → R6 : 28. 6%
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 60%以上にする。
R5 : 60. 0% → R6 : 52. 2%

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度末の校内調査における「コンピュータなどの I C T 機器を使うことは学習の役に立つと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。
R5 : 91. 9% → R6 : 91. 1%
- 教員の 1 か月の平均時間外勤務時間が 45 時間を超えないようにする。
R5 : 38 時間 37 分（2 月末現在）→ R6 : 37 時間 46 分（1 月末現在）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度より増加させる。
R5 : 81. 5% → R6 : 80. 3%
- 校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度より増加させる。
R5 : 72. 6% → R6 : 72. 0%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。
R5 : 38. 5% → R6 : 38. 2%
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度より増加させる。
R5 : 60. 0% → R6 : 52. 2%

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 50%以上にする。
R6 : 0. 7%
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を前年度と同水準以上にする。
R5 : 33. 3% → R6 : 40. 0%（1 月末現在）

※基準 1 1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えない
1 年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えない

3 本年度の自己評価結果の総括

- 年度目標の達成状況については、最重要目標 1 と 2 については概ね前年度と同水準であると考えられる。前年度を上回るためには、単年度だけで考えるのではなく、粘り強く学校力を向上させていくための具体的方策を、学校の現状に応じて講じていくことが必要である。
- 今年度より教育目標を、「学びあい」「支えあい」「認めあい」とした。教科指導はもちろんのこと、生徒が安心して過ごすことができる学級経営を進めていくために、教職員チームをより一層機能させ、目標を実現できる集団育成をめざしていかなければならない。
- 最重要目標 3において、端末の活用については数値目標とは大きくかけ離れてはいるものの、月ごとの学習者用端末利活用率は4月が 18.0%だったのに対し、12 月には 61.4%と大きく伸びている。校内の I C T 教育委員会を中心とした活用に向けたの取組みの成果と考えている。
- 時間外勤務時間については改善が見られた。しかし、生徒や保護者との信頼関係を構築するためには、ある程度の時間を費やすことは必要であり、そのための時間を捻出する工夫が必要である。
- 今年度は生徒のさまざまな力の向上だけではなく、教職員の総合力の向上に向けても、多くの課題を発見し、改善を進めることができたと考えられる。次年度も教育活動の見直しつつ、生徒の無限の可能性を引き出すことができるよう、進化していくなければならない

(様式2)

大阪市立大宮中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった		B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標		達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度より増加させる。 R5 : 81.5% → R6 : 80.3% ○ 校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度より増加させる。 R5 : 72.6% → R6 : 72.0% 		B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ・不登校等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コネクトルームの活用等を進め、さまざまな不安を抱える生徒の学びの場の充実を図る。 ○ SSWと協働して家庭や関係諸機関との連携をとる。 ○ 家庭と連携して生徒理解を深める。 		B
<p>指標 年度末の校内調査における「いじめの可能性に気づいた時点で、直ちに管理職に報告している」に対して、肯定的回答をする教員の割合を100%にする。 R5 : 未実施 → R6 : 100%</p>		B
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>人権を尊重する教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度新たに発足した人権教育委員会で取り組み内容を練り上げる。 ○ 各学年での人権学習、年4回の人権集会、毎回の自主活動など、人権感覚の育成に向けた取組みの更なる充実を図る。 		B
<p>指標 校内調査における「生命や人権を尊重する意識を育てる取り組みがある」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を90%以上にする。 R5 : 94.1% → R6 : 96.8%</p>		B

<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 自己肯定感・自己有用感を育むなかまづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 互いに協働しあう学びを推進し、生徒自身が楽しみや喜びを感じる教育活動の推進を図る。 ○ 互いを認め合い、共に生きる力を育む学級づくりを推進する。 ○ 家庭・地域等との連携を図り、生徒の自尊感情を高め、他者を思いやる気持ちを育む。 <hr/> <p>指標 校内調査における「友だちを大切にし、誤りを指摘できる関係性を大事にしている」に対して肯定的回答をする生徒の割合を90%以上とする。 R5 : 95.6% → R6 : 96.4%</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 自主的・主体的な活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会役員で作成した議題をもとに、生徒議会にて当月の学校全体の目標を作成し、各専門委員会の意識統一を図る。 ○ 学校行事を生徒会主体で進め、生徒会役員が見本となれるよう環境を整える。 ○ 生徒会役員の姿を見て、すべての生徒が自主性を育められるように活発な活動をめざす。 <hr/> <p>指標 校内調査における「委員会、係活動に積極的に取り組む」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。 R5 : 70.4% → R6 : 78.3%</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 キャリア教育・進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムマネジメントを行いながら、基礎的・汎用的能力の育成を図る。 ○ 体験的な活動の充実を図り、自己有用感、自己肯定感の育成をめざす。 ○ 生徒の一人一人が、自分の将来の生き方への関心を深め、自分の能力・適性等の発見と伸長をめざし、夢や目標をもてる進路選択ができるよう指導を行う。 <hr/> <p>指標 校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度より増加させる。 R5 : 72.6% → R6 : 72.0%</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 インクルーシブ教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育に関する校内研修を実施し、教職員の特別支援教育の専門性の向上を図る。 ○ 教室等の環境整備を見直し、支援体制の充実を図る。 <hr/> <p>指標 校内研修後に実施する調査において「今後の教育活動にいかすことができる」の項目に対して、肯定的回答をする教職員の割合を80%以上にする。 R5 : 未実施 → R6 : 年度末に実施</p>	B

取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】

自らの考えを深めることができる道徳教育の充実

- 道徳での公開授業を行い、指導力の向上に取り組む。
- 道徳の授業において、意見交流の充実を図り、生徒一人一人の感性や情操を育むことをめざす。

B

指標 校内調査における「道徳の授業に積極的に取り組む」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を90%以上にする。 **R5: 92.6% → R6: 93.0%**

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】

- コネクトルームがあることで、登校して学習できている生徒が増えた。学級に戻ることができた生徒、休み時間や給食時に友だちとの交流ができるようになった生徒もいた。
- SSWを交えた打合わせを週2回行うことで、学校全体で生徒を見守り、支援する意識を高めることができた。

【取組内容②】

- 年間計画に基づき、各学年で人権学習や人権集会に取り組み、人権意識の向上に努めた。
- 人権教育委員会や学年会において、人権学習の指導案についての検討を深めていくための時間の確保することが難しかった。

【取組内容③】

- 学級活動や生徒会活動の充実を通じて、学びあい、支えあい、認め合うなかまづくりを進めてきた。
- 5月と11月に全校生徒を対象に、hyper-QU調査を実施した。大阪教育大学の教員にも支援をいただき分析を行い、なかまづくりをテーマにした研修を積み重ねた。
- 子ども食堂などの地域活動とのつながりを大切にし、なかまづくりを進めた。

【取組内容④】

- 生徒議会において、生徒会役員が各専門委員会に目標を伝えることができ、各専門委員会において活動の一体化を進めることができた。
- 体育大会や文化発表会等の行事において、生徒会役員が中心となり、生徒が主体的に活躍することが多くなった。
- 生徒の意見や考えを、行事等に取り入れることができるようになった。

【取組内容⑤】

- 進路指導に関する情報を教職員できめ細やかに共有するとともに、生徒や保護者にも必要な情報をわかりやすく伝えることに努めた。
- 今年度から公立高校等においてオンライン出願システムの運用が開始されたこともあり、進路事務を適正に進めることを心がけた。
- チャレンジワーキング（職場体験学習）や職業講話などの、将来の夢や職業について考えたり、将来の目標について考えたりする取組みを充実させることができた。

【取組内容⑥】

- 教職員研修として発達障がい基礎講座を開催し、教室のユニバーサルデザイン化の重要性についての理解を深め、教室等の環境整備を進めた。
- 年度末に校内研修を行い、特別支援教育の重要性と専門性についての教職員の学びを深める予定である。

【取組内容⑦】

- 9月には大阪府中学校道徳教育研究発表会大阪市大会の取組みの一環として、プレ公開授業を実施し、道徳教育の充実を図ることができた。
- 指導と一体化した評価を行えるように、検討を積み重ねた。

次年度への改善点**【取組内容①】**

- コネクトルームが生徒の成長につながる居場所となるよう、さまざまな視点から見直して、よりよい運用へとつなげていく。
- 問題行動等に対する未然防止、初期対応の意識を高め、生徒や保護者との信頼関係をベースにした生徒指導を進める。

【取組内容②】

- 年間計画に基づいた実践だけではなく、生徒の実態に柔軟に対応しながら取組みを進める。
- 人権集会のあり方や実践の進め方について、検討が必要である。
- 11月に行った人権集会では、アンコンシャス・バイアスを扱ったが、これは教職員も意識しておかなければならないことであるという共通認識のもと、教育活動を推進する。

【取組内容③】

- 学校生活をよくしていくためのよりよい発想が生み出されるよう、生徒どうし、また生徒と教職員とのコミュニケーションを豊かにしていく。
- 人権学習の成果が見えるなかまづくりを進める。

【取組内容④】

- 生徒議会を中心とした生徒会活動の充実をさらに進めていく。
- 生徒が主体的に活動できる機会を増やし、生徒会活動の活性化を図る。

【取組内容⑤】

- 将来の夢や目標につながる進路選択の実現に向けて、今後も深い生徒理解を大切にした進路指導を進めていく。
- 教育活動全体を通して、夢や目標に近づけるための努力ができる力を養う。

【取組内容⑥】

- 今後もみんなが過ごしやすい環境を整備していく必要がある。
- 本校では令和8年度から、通級指導教室の運用が開始となる。それも踏まえて教職員のインクルーシブ教育への理解を深めることができる研修等の充実を図る。

【取組内容⑦】

- 生徒が主体的に授業に取り組めるよう、相互参観や研究協議を行う。
- 指導と評価の一体化をめざした授業研究を進める。

大阪市立大宮中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
【未来を切り拓く学力・体力の向上】			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査における「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50% 以上にする。 <u>R5 : 38.5% → R6 : 38.2%</u> ○ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度より増加させる。 <u>R5 : 60.0% → R6 : 52.2%</u> 	B		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
取組内容⑧【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的・対話的で深い学び」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「めあて」と「ふりかえり」を明示して、学習内容の定着を図る。 ○ ペア学習、グループ学習を通して、考えを深める。 ○ 生徒の学習活動についての評価をていねいにおこなう。 	B		
指標 校内調査における「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度より増加させる。 <u>R5 : 80.7% → R6 : 82.2%</u>			
取組内容⑨【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 家庭学習・自主学習習慣の定着 <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が自主的に学習に取り組めるよう、学習指導を工夫する。 ○ テスト前を中心に、放課後学習会を開催する。 ○ シールやスタンプを活用して、学習意欲の向上を図る。 	B		
指標 校内調査における「家庭学習に取り組んでいる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度より増加させる。 <u>R5 : 71.9% → R6 : 72.0%</u>			

<p>取組内容⑩【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>小中連携を通した英語学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他文化への興味・関心や英語力を高めるため、C-NET との T.T. を充実させる。 ○ 学習内容の理解度を高めるため、デジタル教科書などの ICT 機器を効果的に使用する。 ○ 授業にコミュニケーション活動を多く取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実践する。 <p>指標 生徒アンケートで、「英語の授業に積極的に授業に取り組む」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度より増加させる。</p> <p>R5 : 82. 2% → R6 : 82. 2%</p>	B
<p>取組内容⑪【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上に向けた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎体力の向上を図り、各種目において興味・関心を高める。 ○ 保健体育の授業や体育的活動を通じて、生徒が課題解決に向けて自主的、意欲的に取り組めるように工夫する。 <p>指標 校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 90%以上にする。</p> <p>R5 : 81. 5% → R6 : 77. 7%</p>	B
<p>取組内容⑫【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>自らの健康を管理する能力の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保健委員会の取組みの活性化を図る。 ○ 生徒を主体とした学校保健委員会を開催する。 ○ 毎月発行する保健だよりを通じて、健康管理への意識の向上を図る。 <p>指標 校内調査における「食生活や健康に関する指導が行われている」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度より増加させる。</p> <p>R5 : 82. 2% → R6 : 86. 6%</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容⑧】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ペア学習やグループ学習を積極的に行ったことで、生徒どうしの学びあいの場面が増え、学習の充実につながった。 ○ めあてを提示することと、ふりかえりを行うことを意識して授業づくりを行い、学習内容の定着が進んだ。 ○ ふりかえり活動やプレゼンテーション活動で積極的に学習者用端末を活用することができた。 <p>【取組内容⑨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が自主学習に積極的に取り組めるよう、スタンプやステッカーの活用や、教科通信等で事例紹介を行った。 ○ 自主学習ノートを活用することにより、生徒の自主学習習慣の定着が進んだ。 ○ 2学期の期末テストから、大阪工業大学と連携し、放課後のテスト前学習会を開催した。 	

【取組内容⑩】

- C-NETとのチーム・ティーチングを行い、英語学習やさまざまな文化への興味を高めることができ、積極的に英語を使ってやり取りをしようとする生徒が増えた。
- デジタル教科書を活用し、音読などの練習活動を効果的に進めることができた。
- 学習者用端末を活用して発表を行う学習活動に、積極的に取り組むことができた。
- ペアやグループでの活動を通して、場面に応じた活動に取り組むことができた。

【取組内容⑪】

- 保健体育の授業への興味を高めることができ、授業を見学する生徒が減少した。
- ペア学習を充実させ、お互いにアドバイスをしあいながら、積極的に授業参加できるように工夫をした。
- 授業時間内の活動量を増やし、基礎体力の向上につなげた。
- 授業形態をチーム・ティーチング主体とし、各種目の特質やルールなどを生徒が理解しやすいよう工夫をした。

【取組内容⑫】

- 保健委員会では生徒が主体的に活動できるよう工夫した。各種コンクールへの応募や文化発表会での発表は効果的であった。
- 生江小学校と連携した食育の取組みを行った。
- 保健だよりを毎月発行し、生徒と保護者の健康管理への意識の啓発に役立つことができた。

次年度への改善点

【取組内容⑧】

- 習熟度別少人数授業を効果的に行い、学力向上へつなげなければならない。
- 生徒の気づきによって学びが深まるような学習活動を行う必要がある。
- 家庭学習習慣の定着につながる学習活動を展開する必要がある。

【取組内容⑨】

- 学習者用端末を活用した自主学習を積極的に取り入れることも必要である。
- 自主学習ノートの活用に、自分のペースで取り組めるよう、指導する必要がある。
- 大阪工業大学と連携した放課後学習会については、よいよい開催方法を検討しつつ、継続していく予定である。

【取組内容⑩】

- 基礎学力の定着を図るための学習内容を、継続的に行う必要がある。
- 小学校との接続を意識し、言語活動が充実した授業づくりを進める。
- 2年生で行っている英語検定の取組みは、継続させたい。

【取組内容⑪】

- 引き続き、生徒が意欲的に運動に取り組める工夫を進める。
- 休み時間等にボールを使うだけではなく、さまざまな運動に取り組めるように検討したい。

【取組内容⑫】

- 食生活や健康への意識の向上へ向けた取組みを、さらに充実させる必要がある。
- 学校保健委員会を計画的に開催しなければならない。
- 他校の事例を参考にしながら、健康教育のさらなる充実を図る。

(様式 2)

大阪市立大宮中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標		達成状況	
【学びを支える教育環境の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 50% 以上にする。 R6 : 0.7% ○ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を前年度と同水準以上にする。 R5 : 33.3% → R6 : 40.0% (1月末現在) <p>※基準 1 1か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えない 1年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えない</p>			
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			進捗状況
取組内容⑬【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 I C T を活用した教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎朝各学級で、朝の学活時に「心の天気」の入力をすることで、安心して過ごせる教室環境づくりを進める。 ○ I C T 機器を活用し、生徒の実態に応じた指導方法の工夫・改善を行い、基礎・基本の定着を図る。 ○ I C T に関する教職員研修を実施し、情報モラルの向上を図る。 			B
指標 校内調査における「I C T 機器の活用を通じて、基礎・基本の定着と学力向上に向けた取組をしている」に対して、肯定的回答をする教職員の割合を前年度水準以上にする。 R5 : 92.3% → R6 : 100%			B
取組内容⑭【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○ スクールサポートスタッフ等とのつながりを大切にする。 ○ 必要最小限の時間・人数で業務や対応を行えるように工夫する。 ○ ワークライフバランスを意識し、計画性をもって業務を推進する。 			B
指標 教員の 1 か月の平均時間外勤務時間を前年度と同水準にする。 R5 : 38 時間 37 分 (2月末現在) → R6 : 37 時間 46 分 (1月末現在)			

<p>取組内容⑯【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の指導力向上、研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の教育目標の達成および課題解決につながる研修を開催する。 ○ 相互参観期間の活性化を図る。 ○ 校外での研修会等にも積極的に参加し、日々の実践に生かす。 	B
<p>指標 相互参観期間に参観を行う教員の割合を100%にする。 <u>R5 : データなし → R6 : 100%</u></p>	
<p>取組内容⑰【基本的な方向8 生涯学習の支援】 図書室・読書活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校司書と連携し、読書に触れる機会を増やす。 ○ 委員会活動の充実を図り、学級図書の充実や学習活動の充実をめざす。 	A
<p>指標 図書室における2学期末までの1人当たりの貸出冊数を、前年度より増加させる。 <u>R5 : 0.4 冊 → R6 : 1.2 冊</u></p>	
<p>取組内容⑯【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 家庭・地域と連携した教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校ホームページで定期的に学校の様子を発信する。 ○ 学校・学年・学級だよりで発信する情報を充実させる。 ○ 地域と連携した行事等の活性化を図る。 <p>指標 学校ホームページへのアクセス数を前年度以上とする。 <u>R5:23,874 件 → R6 : 20,068 件 (2月末現在)</u></p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容⑬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の学活で「心の天気」の入力することの習慣化がかなり進んだ。 ○ 学習者用端末の家庭への持ち帰りを進め、1日1回は必ず端末を開いて予定を確認する等、活用の習慣化を進めた。 ○ 教職員のTeamsの活用率が飛躍的に向上した。日々の連絡だけではなく、教科の課題を配信したり、学習の振り返りで活用したり、工夫をした。 ○ 2学期末に情報モラルについての出前授業を行った。 <p>【取組内容⑭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スクールサポートスタッフ等との連携で、業務を軽減することができた。 ○ 日常的な打合せ等を効率よく行うことで、負担感の軽減を図った。 <p>【取組内容⑮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ペアワーク・グループワークを活用した授業づくり」又は「学習者用端末を活用した授業づくり」を取り入れる授業づくりを行い、相互参観授業を行った。 ○ 校内研修として、6月に総合教育センターから指導主事2名に来校いただき、国語と数学の授業を参観後、指導助言をいただいた。また、6・8・11月には大阪教育大学の教員に講師を依頼し、なかまづくりについての校内研修を実施した。 ○ 校外での研修会に参加し、校内での共有を図ることが増えた。 	

【取組内容⑯】

- 第2図書室に新たに書棚を追加し、蔵書数を増加させた。
- 3学期に第2図書室でクイズラリーを実施し、図書室の活用を進めた。

【取組内容⑰】

- 学校ホームページにおいて、生徒の学校生活の様子や学校行事を定期的に発信した。地域関係者から、ホームページの感想を聞く機会が増えた。
- 各学年から工夫を凝らした学年通信を定期的に発行した。
- 地域行事に積極的に参加し、地域貢献や活性化に尽力した。

次年度への改善点**【取組内容⑯】**

- 学習者用端末の不具合や充電切れへの対応を効率よく進めたい。
- I C T 教育委員会における役割分担を見直し、生徒の学習の充実につなげる必要がある。
- 学習者用端末の活用事例について、今後も共有を進めていく。

【取組内容⑭】

- 教職員一人一人の役割を明確にし、責任をもって業務を進める。
- 会議や打合せの精選を進める。新たに会議を設ける必要もある。
- さまざまな事案について、未然防止・初期対応に努め、時間外勤務を軽減することへの意識改革を進める。

【取組内容⑮】

- 相互授業参観における参観者の増加をめざした工夫が必要である。
- 教職員に必要な資質を身につけるための研修も必要である。
- 指導計画、指導案の作成を通じて、指導力の向上を図ることも必要である。

【取組内容⑯】

- 日常的に授業で図書室を活用することを推進する。
- 生徒が読書への興味・関心を高めることができる取組みを進める。

【取組内容⑰】

- ミマモルメを活用して、保護者への情報提供を充実させる。
- 引き続き、ホームページの充実を図る。
- P T A と協働し、ニーズに応じた活動を展開する。